

| | | | | | |
|---------|--|-----|-----|---------|-----|
| 教科(科目) | 国語 (言語文化) | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 2学年 |
| 使用教科書 | 第一学習社『高等学校 標準国語文化』 | | | | |
| 副 教 材 等 | 尚文出版『国語必携 パーフェクト演習』 浜島書店『常用漢字の1・2トライ』 教研出版『プレミアムカラー国語史観』 | | | | |

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確かな理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 生活における社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようになる。
- 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広がり深めたりすることができるようになる。
- 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生活にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

進学・就職等希望者が多岐にわたっていることから、

- 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得と、文章を的確に理解し自分の考え方を確立させることを目指します。
- 関心のある内容を積極的に表現し、積極的に考察を深める態度を育てます。
- 自身の考えを的確に表現するための文章能力を養います。

3 評価の観点の趣旨

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------------------------|--|--|
| ・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。 | ・ 「書くこと」, 「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広がり深めようとしている。 | ・ 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広がり深めたりしながら、ことばを持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言語文化の担い手としての自覚をもちようとしている。 |

4 評価方法

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|------|---|---|---|
| 評価方法 | 以上のことを踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 観察、図やグラフでの表現の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。 | 以上のことを踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中への参加の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの振り返りの分析などから、評価します。 | 以上のことを踏まえ、 ・ 授業中への参加の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの振り返りの分析などから、評価します。 |
| | 内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規程表を授業で説明します。 | | |

5 学習計画

| | 単元名 | 授業時数と領域 | 教科書 | 学習活動(指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|---|----------|---------------|--|--|----|--|
| 4 | 小説を讀む(一) | 2 「C 讀むこと」 | 「とんかつ」 | ・ 謎の母の登場が始まる話の構成と展開を理解し、せりふや行動から人物像と心情を読み取る。 ・ 小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・ 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・ 常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・ 読書の意義と効用を理解する。 | 2 | 授業態度 ワークシート 活動の様子 定期考査 |
| | 古文入門 | 2 「C 讀むこと」 | 「古文を讀むために1」 「見のぞら寝」 | ・ 主として歴史的仮名遣いや古今異綴りについて、文語のきまりを理解する。 ・ 読書という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・ 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 | 2 | 授業態度 定期評価 ワークシート 定期考査 |
| 5 | 漢文入門 | 3 「B 書くこと」 | 「漢文を讀むために1」 「訓読に親しむ(一)」 「漢文を讀むために2」 「訓読に親しむ(二)」 「漢文を讀むために3」 「訓読に親しむ(三)」 | ・ 漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使 方を習得する。 ・ 漢文を訓読するための基礎知識として、助字のたたらきと意味を習得する。 ・ 漢文を訓読するための基礎知識として、再読文字の種類と読み方を習得する。 ・ 故事成語や格言が多く触れることにより、語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・ 我が国の文化と外国の文化との関係について理解し、文章をまとめる。 | 3 | 授業態度 定期評価 ワークシート 定期考査 |
| | 詩の楽しみ | 2 「C 讀むこと」 | 「音韻」 「小景異音」 「二十億光年の孤曲」 | ・ 近世詩の鑑賞のしかたを理解し、作品に示された作者の思いを読み取る。 ・ 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・ 近世詩の表現の技法とその効果について理解する。 ・ 繰り返し音読し、積極的に詩等のリズムを理解しようとしている。 ・ 詩の展開や表現の仕方を吟味し、進んで作者の思いを読み取るようとしている。 | 2 | 授業態度 定期評価 ワークシート 定期考査 |
| | 定期テスト | | | | 1 | |
| | 小説を讀む(一) | 4 「C 讀むこと」 | 「よるこびの歌」 | ・ 「私」と周囲との意識の対峙や争いから生じているのかを捉えながら、「私」の心情の動きを読み取る。 ・ 小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・ 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・ 常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・ 読書の意義と効用を理解する。 | 4 | 授業態度 活動の様子 発表・報告 ワークシート 定期考査 |

| | | | | | | | |
|-------|----------|-------------|--------------------------------------|---|---|---|--------------------------------|
| 6 | 古文入門 | 4 C 読むこと | 「古文をよむために2」 「三文にて唐二つ」 | <ul style="list-style-type: none"> ・主として語句の種類こつて、文語のままりを理解する。 ・古典の文章と関るとともに、古文における人物描写のおもしろさを読み取る。 ・語句という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているもの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・種類の異なる語句を読み、絞込みに基づいて人物描写のおもしろさを捉えようとしている。 | 4 | 授業進度 習得評価 ワークシート 定期考査 | |
| | 故事成語 | 4 C 読むこと | 「五十歩百歩」 「矛盾」 「固定」 | <ul style="list-style-type: none"> ・漢文の訓読と関るとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知らる。 ・文章の種類を踏まえて、たとえ語を読み解き、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているもの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文脈的背景を理解する。 ・訓読のままりを理解する。 ・故事成語の由来となった語を読み、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ・故事成語の由来となった語を積極的に読み、わかっただけの内容を工夫してまとめようとしている。 | 4 | 授業進度 習得評価 ワークシート 定期考査 | |
| | 知識と俳句 | 2 B 書くこと | 「清水」 | <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の伝統文化の一つである短歌の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する歌人の作品を味わう。 ・作品に表れているもの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・我が国の言語文化の特徴的な、短歌の表現の技法とその効果こつて理解する。 ・短歌の形式や表現を学んで理解し、学習の見直しをもって短歌文章に親しもうとしている。 ・作品に表れている情景や心情を鑑賞し、自分のもの見方、感じ方を豊かにしようとしている。 ・これまでの学習をふまえ、短歌を讀む。 | 2 | 授業進度 習得評価 ワークシート 短歌の提出 定期考査 | |
| 7 | 定期テスト | | | | 1 | | |
| | 小説を讀む(二) | 3 C 読むこと | 「羅生門」 | <ul style="list-style-type: none"> ・下人の矛盾や心理をもとに場面を捉え、老翁の語る論議が下人の世界と与えた影響を読み取る。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・作品に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の成立した背景を踏まえて、内容を深く捉える。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・登場人物の矛盾や心理を粘り強く読み解き、内容や展開を捉えようとしている。 | 3 | 授業進度 習得評価 ワークシート 定期考査 | |
| | 古文を親しむ | 4 C 読むこと | 「古文を讀むために3」 「なよ竹のかくや姫」 「絵巻前良秀」 | <ul style="list-style-type: none"> ・主として語句の活用こつて、文語のままりを理解する。 ・現代まで受け継がれる物語の読み取りを通して、古文の世界への親しみを深める。 ・作りの物語、説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているもの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 | 4 | 授業進度 習得評価 ワークシート 定期考査 | |
| 8 | 古文を親しむ | 1 B 書くこと | 「古典から受け継がれる話の由来を調べる」 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・課題に応じて調査する。 ・言語文化の細部に興味と自覚をもち、粘り強く語の由来こつて調べ、まとめようとしている。 | 1 | 授業進度 習得評価 ワークシート 定期考査 | |
| | 9 | 漢歌の鑑賞 | 4 C 読むこと | 「漢歌のままり」 「藤原の世界」 「日本の漢詩」 | <ul style="list-style-type: none"> ・漢歌のままりを理解する。 ・表現技法(借題や対句)に留意して漢歌を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に何かの思いを読み取る。 ・作品に表れているもの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文脈的背景を理解する。 ・日本の各時代によまれた漢歌を鑑賞し、人への思いがどのように表現されているかを読み取る。 ・作品に表れているもの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文脈的背景を理解する。 ・我が国の文化に漢詩が浸透して来たことに関心を持ち、中国の文化との関係も理解を深めている。 | 4 | 授業進度 習得評価 ワークシート 定期考査 |
| | | 小説を讀む(三) | 4 C 読むこと | 「夢十夜」 | <ul style="list-style-type: none"> ・「夢」という非日常性を持った世界こつて、自分(夢判断師)の視点としていかに読み解く。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・作品に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・「夢」という設定の中での判断やその根拠を捉え、内容及び作品世界を解釈しようとしている。 | 4 | 授業進度 習得評価 ワークシート 定期考査 |
| 定期テスト | | | | 1 | | | |
| 10 | 随筆を讀む(一) | 3 C 読むこと | 「枕草子」 | <ul style="list-style-type: none"> ・自由に記された随筆を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、もの見方・考え方を理解する。 ・随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているもの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・「歴史の窓」と読み合わせて、作品の歴史的・文脈的背景を理解する。 ・主として形容詞・形容動詞の活用と助動詞こつて、文語のままりを理解する。 ・「春は、あけぼの」「うつくしきもの」では、時間の経過による言葉の変化こつて理解する。 | 3 | 授業進度 習得評価 ワークシート 定期考査 | |
| | 史伝を讀む | 5 C 読むこと | 「源口牛後」 「完壁」 | <ul style="list-style-type: none"> ・戦国時代を背景とした各国の状況を知るとともに、蘇我の言葉が衝突を動かした理由を理解する。 ・史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているもの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・課題に応じて調査する。 ・作品の歴史的・文脈的背景を理解する。 ・訓読のままりを理解する。 ・「源口牛後」「合道盛興」の由来を知り、古典の言葉と現代の言葉とのつながりこつて理解する。 ・種類の異なる史伝を読み、戦国時代の歴史家の説得を解釈しようとしている。 | 5 | 授業進度 習得評価 ワークシート 定期考査 | |
| 11 | 知識と俳句 | 2 B 書くこと | 「手鞠歌」 | <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の伝統文化の一つである俳句の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する俳人の作品を味わう。 ・作品に表れているもの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・我が国の言語文化の特徴的な、俳句の表現の技法とその効果こつて理解する。 ・俳句の形式や表現を学んで理解し、学習の見直しをもって俳句文章に親しもうとしている。 ・作品に表れている情景や心情を鑑賞し、自分のもの見方、感じ方を豊かにしようとしている。 ・学びのことを踏まえ、俳句を作る。 | 2 | 授業進度 習得評価 ワークシート 俳句の提出 定期考査 | |
| | 歌物語を讀む | 3 C 読むこと | 「古文を讀むために4」 「伊勢物語」 | <ul style="list-style-type: none"> ・主として助動詞こつて、文語のままりを理解する。 ・語の中で助動詞が果たしている役割を捉え、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ・歌物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているもの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・「東下り」で課題に応じて調査する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・「歴史の窓」と「筒井筒」の視点を踏まえて、作品の歴史的・文脈的背景を理解する。 | 3 | 授業進度 習得評価 ワークシート 定期考査 | |
| | 定期テスト | | | | 1 | | |

| | | | | | | |
|----|----------|---------------|------------------|--|---|--|
| | 史伝を讀む | 3 「C 讀むこと」 | 「先述聯句 歴史の窓」 | ・戦国時代を背景とした国の状況を知るとともに、郭隆が用いた論理の巧みさを読み解く。 ・史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作風に表れているもの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・「先述聯句」の由来と現代の意味の差を知り、が古典の言葉と現代の言葉とのつながりに気づいて理解する。 | 3 | 授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査 |
| 12 | 伝統と文化 | 4 「C 讀むこと」 | 「祭りの笛」 | ・我が国の伝統行事について書かれた文章を読んで、内容を効果的に伝えるための筆者の工夫を理解する。 ・随筆という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・「言語活動」への見直しをもって随筆を読み、我が国の伝統行事についてもその見方を深めようとしている。 | 4 | 授業態度 活動の様子 発表・報告 ワークシート 定期考査 |
| | 伝統と文化 | 1 「B 書くこと」 | 「『祭り』をテーマに随筆を書く」 | ・我が国の伝統文化に関する題材を選んで、随筆に書き表す。 ・伝統文化に関して的確な題材を集め、集めた題材のよさや面白さを吟味しようとしている。 ・「祭りの笛」を振り返り、構成や表現の工夫を凝らして随筆を書こうとしている。 | 1 | 授業態度 調査とまとめ ワークシートの提出 随筆の提出 定期考査 |
| 1 | 随筆を讀む(二) | 3 「C 讀むこと」 | 「徒然草」 | ・文章に含まれている情報を相互に関連づけるから、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・主張と論拠、個別と一般化、情報と情報の関係を理解し、論理の展開を分析する。 ・論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を活かして要旨をまとめる。 | 3 | 授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査 |
| | 中国の思想 | 2 「C 讀むこと」 | 「論語」 | ・日本にも大きな影響を及ぼした「論語」について知り、孔子のものの見方や考え方を理解する。 ・文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作風に表れているもの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・孔子のエピソードを調べて文章にまとめる課題に応じた調査する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・古典の言葉と現代の言葉とのつながりに気づいて理解する。 | 2 | 授業態度 発問評価 ワークシート 定期考査 |
| 2 | | | | | | |
| 3 | 定期テスト | | | | 1 | |

計70時間(60分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

| | | | |
|-----------------|-----------------------|------------------|-------------------|
| 領域ごとの 授業時数合計 | A 「話すこと・聞くこと」 0 時間 | B 「書くこと」 9 時間 | C 「読むこと」 56 時間 |
|-----------------|-----------------------|------------------|-------------------|

(定期考査 5時間)

6 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題 明確に指示します。(副教材など)
- ・ 長期休業中の課題は定期テストの範囲に含まれます。

7 担当者からの一言

「言語文化」は、実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する科目です。実社会に必要な国語の知識や技能を身につけたり、言葉による見方考え方を働かせ、論理的に考える力が深く共感したり豊かになって想像する力を伸ばしたり、言葉が持つ価値への認識を深めたりすることなどを旨とします。「言語文化」で学ぶことは、皆さんの生涯にわたる基礎となります。授業では、基礎・基本を大切にするとともに、実際に読みたり書いたりする学習活動を通して、応用力を高めていきます。楽しみながら、力を伸ばしていきましょう！

(担当: 木村 朋子、澤田 正夫)

| | | | | | |
|--------|-------------------|-----|--------------|---------|-----|
| 教科(科目) | 地理歴史（地理総合） | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 2学年 |
| 使用教科書 | 帝国書院『高等学校 新地理総合』 | | 帝国書院『新詳高等地図』 | | |
| 副教材等 | 第一学習社『最新地理図表 GEO』 | | | | |

1 学習目標

| |
|--|
| <p>地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力の育成を目指す。</p> <p>(1) 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、人間と自然環境との相互依存関係や地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を養う。</p> <p>(3) よりよい社会の実現を目指し、様々な課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p> |
|--|

2 指導の重点

| |
|---|
| <p>① 地理に関わる諸事象について、その特徴や背景などを正しく理解することを目指します。</p> <p>② グローバルな視座と地域的な視座から、地理的な諸課題への対応を考察します。</p> <p>③ さらにそれらを的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。</p> |
|---|

3 評価の観点の趣旨

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|--|
| 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けようとしている。 | 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、課題の解決に向けて考察し説明したり議論したりする力を養おうとしている。 | よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、考察や理解を通して涵養される日本国民として我が国の国土を理解するとともに、世界の様々な生活文化を尊重することを大切にしようとしている。 |

4 評価方法

| | | | |
|------|--|--|---|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価方法 | <p>世界の文化の多様性、防災、地域や地球的課題への取り組みを理解しようとしている。地理に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付けようとしている。</p> <p>以上のことを踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期考査の分析 学習プリントの分析 提出物などの内容の確認・ <p>などから、評価します。</p> | <p>地理に関する事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、人間と自然環境の相互依存関係などに着目し、考察して、それを表現できるようにしている。</p> <p>以上のことを踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期考査の分析 授業中の発言の観察 提出物などの内容の確認・ <p>などから、評価します。</p> | <p>よりよい社会を実現するための課題を、主体的に追及、解決しようとしている。日本国民として我が国の国土への愛情と、世界の多様な生活文化への尊重を大切にしようとしている。</p> <p>以上のことを踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言の観察 提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分 <p>などから、評価します。</p> |

5 学習計画

| 月 | 単元名 | 学習活動(指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|--------|-------------------------|---|----|---------------------------------------|
| 4 | 第1部 第1章 1節 地球上の位置と時差 | ・緯度の違いや時差は私たちの生活にどのような影響を与えているのか | 2 | 1学期中間考査 学習プリント 振り返りシート |
| | 2節 地図の役割と種類 | ・主題図と一般図には、どのような表現方法や用途があるのか ・統計地図には、どのような種類があり、どのように使い分けられているのか ・地理情報システム(GIS)は、どのように活用されているのか | 5 | |
| | 第2章 1節 現代世界の国家と領域 | ・国家の領域には、どのような決まりがあるか ・日本の位置や領域、領土をめぐる問題には、どのような特徴があるのか | 2 | |
| 5 | 2節 グローバル化する世界 | ・世界の国々の結びつきには、どのような特徴や課題があるのか ・交通網の発達、通信網の発達により、私たちの生活をどのように変化しているのか ・グローバル化によって、観光はどのように変化したのか | 5 | 1学期期末考査 学習プリント 授業ノート 振り返りシート |
| | 第2部 第1章 序説 生活文化の多様性 | ・世界各地の多様な生活文化を考察するには、どのような方法があるのか | 2 | |
| 7 | 1節 世界の地形と 人々の生活 | ・大地形は、人々の生活とどのように関わりあっているのか ・変動帯、安定地域の地形は、人々の生活にどのような影響を与えているのか ・河川や海岸が作る地形など、地形は人々の生活にどのような影響を与えているのか | 6 | 2学期中間考査 学習プリント 振り返りシート |
| | 2節 世界の気候と 人々の生活 | ・気温や降水、風は、人々の生活にどのような影響を与えているのか ・植生は気候とどのように関わりあっているか ・熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯の気候は、人々の生活とどのように関わっているのか | 9 | |
| 8 9 | 4節 歴史的背景と 人々の生活 | ・様々な歴史的背景は、人々の生活にどのような影響を与えてきたのか ・ラテンアメリカでは、どのような文化が形成されたのか ・サハラ以南アフリカでは、どのような文化が形成されたのか ・ロシアの国家体制の変化は、人々の生活にどのような影響を与えたのか | 4 | 2学期期末考査 学習プリント 授業ノート 振り返りシート |
| | 5節 世界の産業と 人々の生活 | ・農業、工業の発展は、人々の生活にどのような影響を与えているのか ・産業のグローバル化は、人々の生活にどのような影響を与えているのか ・アメリカ合衆国の産業は、人々の生活にどのような影響を与えているのか | 5 | |

| | | | | |
|----|----------------------------|--|---|-------------------------------------|
| 11 | 第2章 1節 複雑に絡み合う | ・地球的課題の解決に向けて、どのような取り組みが行われているのか ・地球環境問題には、どのような種類があり、どのような原因で発生するのか | 3 | 学年末考査 学習プリント 授業ノート 振り返りシート |
| | 2節 地球環境問題 | ・地球温暖化はなぜ起こり、環境にどのような影響を及ぼすのか | 1 | |
| | 3節 資源エネルギー問題 | ・エネルギー資源や鉱山震源は、どのように利用され、どのような課題があるのか | 3 | |
| 12 | 4節 人口問題 | ・世界の人口分布や人口増加には、どのような傾向があるのか ・人口問題への取り組みはインドとフランスでどのように異なるのか | 3 | |
| | 5節 食料問題 | ・食糧問題への取り組みは、地域によってどのような違いがあるのか | 2 | |
| | 6節 都市・住居問題 | ・世界の都市の発達や大都市の分布には、どのような傾向があるのか ・都市、住居問題への取り組みは、メキシコとポーランドでどのように異なるのか | 3 | |
| 1 | 第3部 第1章 1節 日本の自然環境 | ・日本の地形にはどのような特徴があり、どのようにして形成されたのか ・日本の気候にはどのような特徴があり、地域差はどのように生じているのか | 2 | |
| 2 | 2節 地震・津波と防災 | ・地震、津波の被害は、地域によってどのような違いがあり、どのような防災、減災の取り組みが行われているのか | 3 | |
| | 3節 火山災害と防災 | ・火山は、人々の生活にどのような恵みや災害をもたらし、共生のための取り組みはなにか | 3 | |
| | 4節 気象災害と防災 | ・気象災害は、場所によってどのような違いがあり、どのような取り組みや課題があるのか | 3 | |
| | 5節 自然災害への備え | ・自然災害の被害を減らすためには、どのような取り組みが必要で、自然災害の被災地にはどのような支援が必要なのか | 3 | |
| | 第2章 1節 生活圏の調査と 地域の展望 | ・生活圏が抱える課題を探求するためには、どのような方法で地域の特徴をとらえ、どのように課題解決への展望を見出していけばよいのか | 1 | |

計70時間 (50分授業)

6 課題・提出物等

- ・定期考査ごとに、授業ノートを提出することとなります。
- ・単元にそくした学習プリントを配布し、授業後に提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

7 担当者からの一言

日々のニュースに注意し、世界と日本の違いや関係性を理解するよう努めて欲しい。
自分の住んでいる地域の、自然環境に興味を持ち、その特徴を人間生活の関係を理解するとともに、そこで発生する自然災害に備える防災意識を高めて欲しい。

(担当：岡田雅章・渡邊由佳)

| | | | | | |
|--------|--------------------------|-----|------|---------|------|
| 教科(科目) | 数学 (数学 I) | 単位数 | 2 単位 | 学年(コース) | 2 学年 |
| 使用教科書 | 最新 数学 I (数研出版) | | | | |
| 副教材等 | Study-Up ノート 数学 I (数研出版) | | | | |

1 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 指導の重点

三角形の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにします。また、統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し、傾向を把握できるようにします。そして、単元ごとに課題学習を行い、身近な課題について主体的に学習し、数学のよさを認識します。

3 評価の観点の趣旨

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| 図形と計量及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 | 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 |

4 評価方法

| | | | |
|------|---|---|---|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価方法 | 以上のことを踏まえ、 ・小テスト ・自習課題、 ・課題テスト、定期テスト などから評価します。 | 以上のことを踏まえ、 ・授業の取組 (問題演習など) ・自習課題、ノート等の提出物 ・長期休業中の課題の提出状況 ・振り返りシートの記述の分析 などから評価します。 | 以上のことを踏まえ、 ・授業の取組 (授業態度など) ・自習課題、ノート等の提出物、 ・長期休業中の課題の提出状況、 ・振り返りシートの記述の分析 などから評価します。 |
| | 内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。 | | |

5 学習計画

| 月 | 単元名 | 授業時数 と領域 | 教材名 | 学習活動(指導内容) | 時 間 | 評価方法 |
|---------|-------------------|-----------------------|---------------|--|--------------------------------------|--|
| 4 | 1章 数と式 3章 2次関数 | 2「A」 1「C」 | | 1年次の復習 | 3 | ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 |
| 4 7 | 4章 図形と計 量 | 10「A」 6「B」 8「C」 | 三角比 | 鋭角の三角比 三角比の利用 三角比の相互関係 三角比の拡張 三角比が与えられたときの角 節末問題 | 5 4 6 7 1 1 | 授業態度 定期テスト ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 授業態度 定期テスト |
| | | 9「A」 7「B」 | 正弦定理・ 余弦定理 | 正弦定理 余弦定理 | 5 6 | ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 授業態度 定期テスト |
| 7 11 | | 8「C」 | | 三角形の面積 図形の計量 節末問題, 章末問題 | 5 6 2 | ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 授業態度 定期テスト |
| | | 1「B」 1「C」 | 課題研究 | 直接測ることのできない高さの測量 | 2 | ワークシート(課題)提出 授業態度 |
| 11 3 | 5章 データの 分析 | 5「A」 6「B」 4「C」 | データの分 析 | データの整理 データの代表値 データの散らばり データの相関 相関係数 分割表, 研究 仮説検定の考え方 章末問題 | 2 2 4 1 3 1 1 1 | ワークシート(課題)提出ワ ークシート(発問)評価 授業態度 定期テスト ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 |
| | | 1「B」 1「C」 | 課題学習 | 冬と夏の気温の関係を調べてみよう | 2 | 授業態度 定期テスト |

計 70時間 (50分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

| 領域ごとの 授業時数合計 | A 知識・技能 | B 思考・判断・表現 | C 主体的に学習に取り組む態度 |
|-----------------|---------|------------|-----------------|
| | 26時間 | 21時間 | 23時間 |

6 課題・提出物等

- ・課題に対する小テストを行います。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。
- ・定期考査ごとにワークを提出してもらいます。

7 担当者からの一言

簡単で同じような問題を繰り返し解き、基礎の定着をはかることで、必ず自分で解けるようになります。一見難しい問題に見えても、以前解いた問題と似ているはず。それに気づき、少しでもたくさんの方が問題を解けるようにしましょう。

(担当： 新井真紀)

| | | | | | |
|--------|--------------------------|-----|-----|---------|------------|
| 教科(科目) | 理科 (生物基礎) | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 2学年 (全コース) |
| 使用教科書 | 第一学習社『高等学校 生物基礎 BIOLOGY』 | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | |

1 学習目標

| |
|---|
| <p>生物や生命現象に関わり、科学的に探求するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>① 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。</p> <p>② 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。</p> <p>③ 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p> |
|---|

2 指導の重点

| |
|--|
| <p>本学が農業高校であり、農業科として動物や植物に触れていくことも踏まえ、</p> <p>① 基本的な知識にとどまらず、授業で扱う内容については生徒自らが観察や実験、資料などから、規則性や特徴を見いだして理解する能力を引き出していくことを目指す。</p> <p>② また、現代の生命科学の進歩や環境問題などの発展的な内容も取り扱い、諸問題の探求の過程を通して科学的な観点に立って考えることのできる資質や能力を育成することを目指す。</p> |
|--|

3 評価の観点の趣旨

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|--|
| 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録方法など、基本的な技能を身に付けている。 | 生物や生物現象から問題を見だし、見通しを持って観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。 | 生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。 |

4 評価方法

| | 評価は次の観点から行います。 | | |
|------|--|---|---|
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価方法 | <p>以上のことを踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> 小テスト・定期テストの取り組みや理解の度合い 授業中の発言や観察・実験への取り組みの様子 実験レポートやワークシート、提出物などの内容 <p>などから、評価します。</p> | <p>以上のことを踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> 小テスト・定期テストの取り組み、思考の度合い 授業中の発言や観察・実験への取り組みの様子 実験レポートやワークシート、提出物などの内容 復習プリントの記述内容 <p>などから、評価します。</p> | <p>以上のことを踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言や観察・実験への取り組みの様子 実験レポートやワークシート、提出物などの内容 復習プリントの記述内容 <p>などから、評価します。</p> |
| | <p>内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりごとの評価基準は授業で説明します。</p> | | |

5 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材名 | 学習活動(指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|---|-----------|-------------------------|--|----|---------------------|
| 4 | はじめに | 学習の進め方 顕微鏡観 | 科学的な探究的の流れの整理 光学顕微鏡の操作し観察を行う。 | 3 | 実験時の態度 レポート提出 |
| 5 | 1章 生物の共通性 | 生物の多様性と共通性 生物の共通性の由来 | 生物の共通性から起源の共有、系統と系統樹を理解させる。 原核生物と真核生物に見られる細胞構造と細胞小器官を理解させる。 | 9 | ワーク課題提出 復習プリント提出 |

| | | | | | | |
|---------------|--------------------------------------|--|---|--|---|--|
| 5 6 | の 特 徴 | 第 2 節 生物とエ ネルギー | 生物とエネルギー 代謝とATP 代謝と酵素 | 生命活動のエネルギーが必要性と、ATP の構造とその役割を理解させる。 光合成と呼吸の概要や代謝と酵素の働きを 理解させる。 | 6 | 授業態度 定期考査(1中間) |
| | 7 | 2 章 遺 伝 子 と 働 き | 第 1 節 遺伝子の 本体と構 造 | 遺伝情報とDNA DNAの複製と分 配 | 遺伝情報を担う物質DNAの構造 や研 究史、DNAの塩基の相補性と半保存的複 製を理解させ、細胞周期の各時期にかかる 時間を推定できるようにする。 | 6 |
| 9 10 11 | | 3 章 ヒ ト の 体 の 調 節 | 第 2 節 遺伝情報 とタンパ ク質 | 遺伝情報とタンパ ク質 転写と翻訳 遺伝子とゲノム | タンパク質の構造を理解し、DNAの塩基 配列とアミノ酸配列との関係を見いださせ る。転写と翻訳、遺伝暗号表の読み取りや ゲノム、細胞の分化と遺伝子の発現につい て理解させる。 | 7 |
| | 第 1 節 情報伝達 と体内環 境の維持 | | 恒常性と神経系 恒常性と内分泌系 体内環境を調節す るしくみ 血液凝固 | ヒトの神経系と脳、自律神経系の働き 内分泌系による調節、フィードバック 体内環境の維持とホルモンの働きを理解さ せる。血糖濃度調節と糖尿病、体温調節、 血液凝固について理解させる。 | 9 | ワーク課題提出 復習プリント提出 授業態度 定期考査(2中間) |
| 12 | 4 章 植 生 と 遷 移 | 第 2 節 免疫 | 生体防御 自然免 疫 獲得免疫 自然免 疫と獲得免疫の特 徴 | 生体の物理的・化学的防御や、免疫での異 物を排除する防御機構を理解させる。 免疫疾患や免疫を利用した医療について理 解させる。 | 10 | ワーク課題提出 復習プリント提出 授業態度 定期考査(2期末) |
| | | 第 1 節 植生と遷 移 | 植生と環境の関わ り 遷移のしくみ | 植生とその特徴、環境との関係を学習し、 遷移の要因を見いださせる。一次遷移と二 次遷移について理解させる。 | 5 | |
| 1 | 5 章 生 態 系 と 保 全 | 第 2 節 バイオー ム | 遷移とバイオー ム | 植生の遷移とバイオー ムを学習し、世界・ 日本のバイオー ム、垂直分布と水平分布に ついて理解させる。 | 3 | 課題考査(3学期) ワーク課題提出 復習プリント提出 |
| | | 第 1 節 生態系と 生物の多 様性 | 生態系の成り立ち 生態系における生 物どうしの関わり | 生態系概念について学習し、食物連鎖と 食物網や種の多様性と生物間関係性につ いて理解させる。 | 7 | 授業態度 定期考査(3期末) |
| 3 | 第 2 節 生態系の バランス と保全 | 生態系の変動と安 定性 人間活動に よる生態系への影 響とその対策 | 生態系のバランスと人間活動による生物の 多様性への影響や外来生物を学習し、生態 系の保全の重要性を認識させる。 | 5 | 復習プリント提出 授業態度 | |

計 70時間 (50分授業)

6 課題・提出物等

- ・課題ワーク提出 ・授業復習プリント提出 ・授業ノート提出
- ・夏季課題 ・冬季課題 ・単元の小テスト ・実験レポート提出

7 担当者からの一言

生物は身近な存在です。何より我々「ヒト」が生物そのものです。授業に集中することはもちろんですが、生物に興味を持って学習していくことが大切です。「なぜかな?」と思ったら、インターネットや図書館のマンガや図鑑、専門書などで調べてみましょう。
(担当: 曾田)

| | | | | | |
|--------|------------|-----|-----|---------|----------|
| 教科(科目) | 理科(化学基礎) | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 2学年(農業科) |
| 使用教科書 | 実教出版「化学基礎」 | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | |

1 学習目標

| |
|--|
| <p>物質とその変化に関わり、科学的に探究する心高め、理解を深めるために次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1)日常生活や社会との関連を図り、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験のための基本的技能を身につける。</p> <p>(2)理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行う技術を身につける。</p> <p>(3)ものごとを裏証的・理論的に考察・分析し、科学的に探究する能力と態度を育てる。</p> |
|--|

2 指導の重点

| |
|---|
| <p>・本学が農業高校であり、専門性に繋がるコースがあることも踏まえ、</p> <p>① 自然の基礎的な原理・法則を理解する能力を養うとともに、科学技術の進歩と農業との関わりについて理解を深める。</p> <p>② 観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>③ 自然が日常生活と深く関わっていることを理解することに重点をおく。</p> <p>④ 高校卒業後の進路先が多岐にわたっていることより、個々の進路目標に対応する。</p> |
|---|

3 評価の観点の趣旨

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|--|
| 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 | 物質とその変化から問題を見だし、見通しを持って観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。 | 物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 |

4 評価方法

| | | | |
|------|--|---|--|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 a | 思考・判断・表現 b | 主体的に学習に取り組む態度 c |
| 評価方法 | <p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> 小テスト・定期テストの分析 授業中の発言、観察・実験への取組の観察 実験レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 <p>などから、評価します。</p> | <p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> 小テスト・定期テストの分析 授業中の発言、観察・実験への取組の観察 実験レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析 <p>などから、評価します。</p> | <p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言、観察・実験への取組の観察 実験レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析 <p>などから、評価します。</p> |
| | <p>内容のまとまりごとに、各観点 「A:十分満足できる」「B:おおむね満足できる」「C:努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。</p> | | |

5 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材名 | 学習活動(指導内容) | 時数 | 評価方法 |
|---|------------|--|---|----|---|
| 4 | 序 物質と化学 | 物質とは何か 物質を分類する 変化を調べる 性質の違いで物質を見分ける 物質の変化を観察する | 化学と人間生活との関わりについての観察・実験を通して、物質の化学的特徴を理解する。 | 2 | ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 授業態度 実験レポート |

| | | | | | | |
|----|------------|--|--|---|----|--|
| 4 | 1章 物質の構成 | 1節 物質の探求 | 1 物質の分類と性質 2 物質と元素 3 物質の三態と熱運動 | 物質の分離や精製の実験を行い、実験における基本操作と物質を探究する方法を身につけさせる。元素を確認する実験などを行い、単体・化合物について理解させる。 | 6 | ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 授業態度 定期テスト 実験レポート |
| | | 2節 物質の構成粒子 | 1 原子の構造 2 イオンの生成 3 元素の周期表 | 原子の構造及び陽子・中性子・電子の性質を理解させる。元素の周期表及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関連を理解させる。 | | |
| 5 | 2章 物質と化学結合 | 1節 イオン結合 | 1 イオン結合とイオン結晶 2 イオン結合からなる物質 | イオンの生成と電子配置と関連付けて理解させる。また、イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解させる。 | 6 | ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 授業態度 |
| 6 | | | 2節 共有結合と分子間力 | 1 共有結合と分子 2 分子間力と分子結晶 3 共有結合からなる物質 | | |
| 7 | | 3節 金属結合 | 1 金属結合と金属結晶 2 金属 | 金属の性質及び金属結合を理解させる。 | 6 | ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 授業態度 |
| 8 | | | 4節 化学結合と物質 | 1 結晶の分類 2 化学結合と身のまわりの物質 | | |
| 9 | | 1節 物質と化学反応式 | 1 原子量と分子量・式量 2 物質質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式 | 原子量・分子量・式量・物質質量を理解させる。溶液の濃度計算ができるようにする。化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解させる。 | 12 | ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 授業態度 |
| 10 | 2節 酸と塩基 | 1 酸と塩基 2 酸と塩基の分類 3 水素イオン濃度とpH 4 中和反応と塩 | 酸や塩基に関する実験を行い、酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解させる。 | 12 | | |
| 11 | 3節 酸化還元反応 | 1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元 4 酸化還元反応の応用 | 酸化と還元が電子の授受によることを理解させる。 | | 9 | ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 授業態度 定期テスト 実験レポート |
| 12 | と化学 | 終 | 衣食住 | 科学技術の成果と今後の課題について考察し、科学技術と人間生活との関わりについて探究させる。 | | |

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・ ワークシート、ワーク、ノートの提出
- ・ 小テストの実施、実験レポートの提出

7 担当者からの一言

私たちの身の周りにはたくさんの科学現象があります。ふだん当たり前と感じていた現象が、実は法則があったり規則に従っていたりします。授業に集中することはもちろんですが、興味をもって学習に臨むことが何よりも大切です。板書をそのまま写すだけでなく、教科書を読み、自分でまとめてみましょう。インターネットや図書室(漫画や図鑑、専門書など)の利用もお勧めです。(担当:上村)

5 学習計画

| 月 | 単元名 | 授業時数 と領域 | 学習活動(指導内容) | 評価の観点 | 評価方法 |
|----------|--|-------------|--|-------------|-----------------------------------|
| 4 | 体づくり運動 | 8時間 | ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動 | a | 評価規準と評価方法を踏まえて、各学習内容についてそれぞれ評価する。 |
| 5 6 | 選択① ・陸上競技(短距離) ・器械運動 ・ダンス | 11時間 | ・100m, 200m ・マット運動 ・現代的なリズムのダンス | a c | |
| 7 9 | 選択② ・陸上競技(投てき) ・器械運動 ・ダンス | 11時間 | ・円盤投 ・跳び箱 ・創作ダンス | a c | |
| 9 10 | 陸上競技 | 8時間 | ・持久走 | a | |
| 11 12 | 選択③ ・球技ゴール型 ・球技ネット型 ・球技ベースボール型 ・武道 | 13時間 | ・サッカー ・バレーボール ・ソフトボール ・柔道 | a b c | |
| 12 | 体育理論 | 6時間 | 2単元 運動・スポーツの学び方 | a b | |
| 1 3 | 選択③ ・球技ゴール型 ・球技ネット型 ・球技ベースボール型 ・武道 | 13時間 | ・バスケットボール ・バドミントン ・バレーボール ・柔道 | a b c | |

計 70 時間 (50分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

| 領域ごとの 授業時数合計 | 体づくり運動 | 体育理論 | 器械運動からダンスまでの領域 |
|-----------------|--------|------|----------------|
| | 8 時間 | 6 時間 | 56 時間 |

6 課題・提出物等

身体的理由により、運動が制限される生徒に対しては、レポート作成を指導します。

7 担当者からの一言

- ・運動が得意、不得意にかかわらず、体を動かすことの楽しさや心地よさを感じてください。
- ・仲間と共に運動することで、達成感や充実感を味わってください。
- ・年間を通じて自らの体力向上に努め、生涯にわたって健康を保持増進できる力を身につけましょう。

(担当： 古畑 豊和)

| | | | | | |
|--------|-------------------|-----|------|---------|------|
| 教科(科目) | 保健体育 (保健) | 単位数 | 1 単位 | 学年(コース) | 2 学年 |
| 使用教科書 | 大修館書店 現代高等保健体育 | | | | |
| 副教材等 | 大修館書店 現代高等保健体育ノート | | | | |

1 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 指導の重点

- ① 健康の大切さや体の発育・発達などの基礎的・基本的な事項が理解できるようにする。
- ② 健康的なライフスタイルを確立する。
- ③ 深刻化する健康・安全に関する新たな課題等に対応する。
- ④ 心の健康の保持増進に関する理解を図る。

3 評価の観点の趣旨

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|---|
| 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。 | 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。 | 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。 |

4 評価規準と評価方法

| 評価は次の観点から行います。 | | | |
|----------------|--|---|---|
| | 知識・技能 a | 思考・判断・表現 b | 主体的に学習に取り組む態度 c |
| 評価の観点 | 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。 | 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。 | 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、提出物などの内容確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。 | 以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表やグループワークへの取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから評価します。 |

5 学習計画

| 月 | 単元名 | 授業時数 と領域 | 教材名 | 学習活動(指導内容) | 評価の観点 | 評価方法 |
|--------------|---|-------------|-----|--|-------------|-----------------------------------|
| 4 ～ 7 | 3単元 生涯を通じる健康 | 11時間 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージと健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動の選択 ・妊娠・出産と健康 ・避妊法と人工妊娠中絶 ・結婚生活と健康 ・中高年期と健康 | a b c | 評価規準と評価方法を踏まえて、各学習内容についてそれぞれ評価する。 |
| 7 | 定期テスト | | | | a b | |
| 9 ～ 11 | 3単元 生涯を通じる健康 4単元 健康を支える環境づくり | 14時間 | | <ul style="list-style-type: none"> ・働くことと健康 ・労働災害と健康 ・健康的な職業生活 ・大気汚染と健康 ・水質汚濁、土壌汚染と健康 ・環境と健康にかかわる対策 ・ごみの処理と上下水道の整備 ・食品の安全性 ・食品衛生にかかわる | a b c | |
| 12 | 定期テスト | | | | a b | |
| 12 ～ 3 | 4単元 健康を支える環境づくり | 10時間 | | <ul style="list-style-type: none"> ・保健サービスとその活用 ・医療サービスとその活用 ・医薬品の制度とその活用 ・さまざまな保健活動や社会的対策 ・健康に関する環境づくりと社会参加 | a b c | |
| 2 | 定期テスト | | | | a b | |

計 35 時間 (50分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

| | | |
|-----------------|-----------------------|--------------------------|
| 領域ごとの 授業時数合計 | 3単元 生涯を通じる健康 15 時間 | 4単元 環境を支える環境づくり 20 時間 |
|-----------------|-----------------------|--------------------------|

6 課題・提出物等

定期的に学習ノートを提出します。

7 担当者からの一言

- ・現代社会における様々な健康課題に対して、自らの考えを持てるようにしましょう。
- ・授業で得た知識や課題解決の方法を実生活に役立てられる力を身につけてください。

(担当： 古畑 豊和)

| | | | | | |
|--------|--|-----|------|---------|------|
| 教科(科目) | 英語コミュニケーションⅡ | 単位数 | 2 単位 | 学年(コース) | 2 学年 |
| 使用教科書 | 『All Aboard! English Communication Ⅱ』(東京書籍) | | | | |
| 副教材等 | エースクラウン英和辞典、All Aboard! Workbook(東京書籍)、『フレーズで英単語 3000』『フレーズで英単語 3000 WORKBOOK I Ⅱ』(浜島書店)、Listening Platform 1 (いっずな書店) | | | | |

1 学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2 指導の重点

- ① 1年次での学習内容をふまえ、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をさらに伸ばす。
- ② 教科書の題材を通して、異文化を理解しようとする心や社会への関心、自身・自国への関心を高める。
- ③ 場面や目的に応じて、自分自身の考えや思いを適切に表現する能力を養う。
- ④ 英語学習に対する積極的な態度を養う。

3 評価の観点の趣旨

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 |

4 評価規準と評価方法

| | 評価は次の観点から行います。 | | |
|-------|--|---|--|
| | 知識・技能 a | 思考・判断・表現 b | 主体的に学習に取り組む態度 c |
| 評価の観点 | 外国語の4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 | コミュニケーションを行う場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題や身近な話題について、情報や考えなどを的確に理解、整理し、適切に伝え合っている。 | 他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自らの考えや意見などを話したり書いたりして表現しようとしている。 |
| 評価方法 | 以上の観点をふまえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の取組(授業態度、学習活動への参加状況など) ・提出物(ワークブック、ノート、課題等)の内容 ・小テスト(確認テスト、単語テスト) ・定期テスト などから、評価します。 | 以上の観点をふまえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の取組(授業態度、学習活動への参加状況など) ・提出物(ワークブック、ノート、課題等)の内容 ・小テスト(リスニング) ・定期テスト(リスニング&英作文) などから、評価します。 | 以上の観点をふまえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の取組(授業態度、学習活動への参加状況など) ・提出物(ワークブック、ノート、課題等)の内容 ・小テスト(確認テスト、単語テスト) ・定期テスト などから、評価します。 |

5 学習計画

| 月 | 単元名 | 学習活動(指導内容) | 評価の 観点 | 評価方法 | 時 数 |
|--------------------------|---|---|------------------------------------|--|--------|
| 4 5 6 7 | Pre-Lesson Lesson1 A Colorful Island Lesson2 With the beatles | to 不定詞やwill を使って今年やってみたいことを相手に伝えられる。 関係代名詞 what を理解する。また海外の観光地について学んだり、海外で行ってみたい場所や、やりたいことについて関係代名詞 what 用いて相手に伝えることができる。 比較表現 <more> <the most>を理解する。また世代を超えて人気のある音楽バンドについて、比較表現を用いて、情報や考え、気持ちを話して伝えられる。 | a,b a,b a b a,c a,c | ワークシート 定期テスト 単語テスト リスニングテスト 授業態度 ワークブック | 27 |
| 8 9 10 11 12 | Lesson3 Wild Men Lesson4 Little Hero | <It is ... (for A) to ~> <It is ... that ~> を理解する。またヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」について学んだり、身近な行事について<It is ... (for A) to ~> <It is ... that ~> を用いて、情報や考え、気持ちを話して伝えられる。 間接疑問文を理解する。ハチドリやハチドリを主人公にした物語について学んだり、調べた事柄について、情報や考え、気持ちを話して伝えられる。 | a,b a,b a b a,c a,c | ワークシート 定期テスト 単語テスト リスニングテスト 授業態度 ワークブック | 26 |
| 1 2 3 | Lesson5 Special Makeup in Kabuki | < to 不定詞 > を含む表現を用いた分の形、意味を理解している。また日本の伝統文化について学んだ事柄を用いて、情報や考え、気持ちを話して伝えられる。 | a,b a,b a b a,c a,c | ワークシート 定期テスト 単語テスト リスニングテスト 授業態度 ワークブック | 17 |

70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・ワークシート、ワークブックの提出。
- ・小テスト (単語テスト、リスニングテスト) の実施、発表 (音読テスト、パフォーマンステスト)。
- ・長期休業中課題提出。

7 担当者からの一言

英語を通して、日常的な話題や身近な話題について、自分の考えを整理し、コミュニケーションを積極的に図りましょう。定期テスト、発表、小テスト、提出物、授業への取り組みを総合的に評価しますので、日頃からコツコツと取り組むことが大切になります。間違えを気にせず、前向きに授業に取り組みましょう。

(担当：佐藤美穂子、高原貴美子)

| | | | | | |
|--------|-----------------------|-----|-----|---------|-----|
| 教科(科目) | 家庭総合 | 単位数 | 2単位 | 学年(コース) | 2学年 |
| 使用教科書 | 東京書籍 自立・共生・創造 | | | | |
| 副教材等 | 東京書籍 (自立・共生・創造) 学習ノート | | | | |

1 学習目標

| |
|---|
| <p>生活を営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 人の人生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域および社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p> |
|---|

2 指導の重点

| |
|--|
| <p>生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭および福祉、衣生活、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能の習得を目指します。</p> <p>生涯を見通して、家庭や地域および社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を育てます。</p> <p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したり、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践できることを目指します。</p> |
|--|

3 評価の観点の趣旨

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|---|
| <p>・生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭および福祉、衣生活、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けようとしている。</p> | <p>・自己の家庭生活について主体的に考え、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けようとしている。</p> | <p>・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p> |

4 評価規準と評価方法

| | | | |
|-------|---|--|--|
| | 評価は次の観点から行います。 | | |
| | 知識・技能 a | 思考・判断・表現 b | 主体的に学習に取り組む態度 c |
| 評価の観点 | <p>・生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭および福祉、衣生活、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能の習得を目指します。</p> | <p>・自己の家庭生活について主体的に考え、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けようとしている。</p> | <p>・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p> |
| 評価方法 | <p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> 小テスト・定期考査の分析 授業中の発言、実験・実習への取り組みの観察 実験・実習のレポートやワークシート、提出物の内容の確認 <p>などから、評価します。</p> | <p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> 小テスト・定期考査の分析 授業中の発言、実験・実習への取り組みの観察 実験・実習のレポートやワークシート、提出物の内容の確認 振り返りシートの記述の分析 <p>などから、評価します。</p> | <p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言、実験・実習への取り組みの観察 実験・実習のレポートやワークシート、提出物の内容の確認 振り返りシートの記述の分析 <p>などから、評価します。</p> |

5 学習計画

| 月 | 単元名 | 授業 時数 | 教材名 | 学習活動(指導内容) | 評価の観 点 | 評価方法 |
|-----------------------|--|----------|---|--|--------------------------|---|
| 4 | 家庭科の学 び方 ホームプロ ジェクトと 学校家庭ク ラブ活動 | 2 | ・家庭科の学び方 ・生活に生かそう | ・ホームプロジェクト及び学校家庭ク ラブ活動の意義と実施方法について理 解する。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連 付けて生活上の課題を設定し、解決方 法を考え、計画を立てて実践しようと する。 | a b a b c a | ワークシート提出 ワークノート評価 授業態度 定期テスト |
| | 第1章 生涯を見通 す | 3 | 1. 人生を展望する 2. 目標を持って生 きる | ・自立した生活を営むために、生涯発達 の視点からライフステージの特徴と課 題を理解する。 ・生活課題に対して意思決定を行う重 要性を理解する。 | a b c a | ワークノート評価 授業態度 定期テスト |
| 5 6 | 第2章 人生をつく る | 1 2 | 1. 人生をつくる 2. 家族・家庭を見つ める 3. これからの家庭 生活と社会 | ・生涯を見通して自分のライフスタイル を考えることができるように、さま ざまな生き方について理解する。 ・よりよい家庭生活を実現するために、 家族・家庭と私たちの生活の結び付き を理解する。 | a b c a | ワークノート評価 授業態度 定期テスト |
| 6 7 9 10 | 第7章 衣生活をつ くる | 2 6 | 1. 被服の役割 2. 被服を入手する 3. 被服を管理する 4. 製作する 5. 衣生活の文化と 知恵 6. これからの衣生 活 | ・私たちが被服を着用するに至った、社 会的・文化的背景と被服の多様な機能 や特徴について理解する。 ・用途に合った着装を実践できる力を 身につけるために、社会生活を営むう えでの被服の役割を理解する。 ・私たちが被服を着用するに至った、社 会的・文化的背景と被服の多様な機能 や特徴について理解する。 | a b a c c a | レポート ワークシート 学習ノート 製作品 授業態度 定期テスト |
| 10 11 12 | 第9章 経済生活を 営む | 1 5 | 1. 情報の収集・比較 と意思決定 2. 購入・支払いのル ール 3. 消費者の権利と 責任 4. 生涯の経済生活 を見通す 5. 家計をマネジメ ントする 6. これからの経済 生活 | 自立した責任ある消費者として、より よい意思決定ができるよう、現代の消 費生活における意思決定の重要性と情 報の活用について理解する。 ・消費者には権利と責任があることを 理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応でき るよう、消費者保護制度について理解 する。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえ て、どうすれば消費者市民社会が実現 できるか考えて実践しようとする。 ・大きく変化する世界経済の中で家計 をマネジメントする力をつけるため、 家計と地域経済・国民経済・国際経済の つながりについて理解する。 ・どうすれば持続可能な経済成長が実 現できるか考えて実践しようとする。 | a b c a | レポート ワークシート 学習ノート 授業態度 定期テスト |

| | | | | | | |
|---|------------------------|-----|--|--|------------------|--|
| 1 | 第4章 超高齢社会 を共に生きる | 1 2 | 1. 超高齢・大衆長寿 社会の到来 2. 高齢者の心身の 特徴 3. 高齢者の自立を 支える 4. これからの超高 齢社会 | ・超高齢社会の背景を理解する。 ・高齢者が生きがいを持って生活する ためには、家族や地域によるどのよう な支援が必要か、考える。 ・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生 き方や尊厳について理解を深める。 ・高齢期を支える社会の仕組みや課題 について考える。 ・高齢者の自立を支えるために私たち にできる適切な支援の方法や関わり方 を考える。 | a b c | レポート ワークシート 学習ノート 授業態度 定期テスト |
|---|------------------------|-----|--|--|------------------|--|

計70時間 (50分授業)

6 課題・提出物等

- ・ワークシート¹の提出
- ・衣生活で制作する作品
- ・実験・実習のレポートの提出
- ・小テストの実施

7 担当者からの一言

身の回りの事柄に関心や課題意識を持ち、自分や家族の生活がよりよいものになるように、生活に必要な基礎的なことを理解し、実践できる技能を身に付けましょう。
授業態度を重視します。欠席や遅刻、忘れ物をせず、望ましい態度で授業に臨んで下さい。
エコバッグや課題プリント、ファイル等の提出物は期日を厳守してください。 (担当： 藤塚)